

平成二十九年 度 小学生・中学生 春の俳句大会

平成29年4月8日から30日まで開催した「小学生・中学生 春の俳句大会」は、投句数にして1001句のご応募をいただきました。

たくさんの方々のご参加、誠にありがとうございました。

審査会を行った結果、最優秀作品 小学生の部二句、中学生の部二句、入選作品 小学生の部三句、中学生の部五句を次のとおり決定いたしました。

(賞・部門ごとに学年順・五十音順)

◆審査会委員

井澤 昭雄 (四日市中日文化センター講師、ともしび詩舎同人)

野村 弘和 (公益財団法人徳川黎明会 徳川美術館 管理部 マネージャー)

鳥居 和之 (名古屋市蓬左文庫 文庫長)

坂井 隆広 (公益財団法人名古屋市みどりの協会・岩間造園グループ 徳川園事務所 所長)

《最優秀作品・小学生の部》

名古屋市立 筒井小学校（東区）一年 松田 理央菜 さん

おもたいよ わたしのはんぶん ランドセル

1年生になって間もない頃、大きな期待と少しの不安で胸が一杯、真新しいランドセルのなかにも教科書やノートで一杯です。まるでランドセルに背負われているような1年生。6年生になる頃には、あんなに重かったランドセルもずっと小さく見えることでしょう。

【審査員 野村 弘和】

名古屋市立 葵小学校（東区）五年 吉次 なほの さん

てつぼうが つめたくないぞ もう春だ

冬の間、冷たかった鉄棒がいつの間にか暖かく感じられる此の頃です。寒さがゆるみ、春の息吹が感じられる一瞬を一句に詠み込んだ感性が素晴らしい。鉄棒は学校の運動場や公園、小さなどんぐり広場等にも設けられている。幼い頃には、ぶら下がりや学校では逆上がり、懸垂等々基礎体力つくり役立っている。オリンピックの体操ニッポンの基礎、筋力トレーニング等々将来の夢の膨らむ一句です。

【審査員 井澤 昭雄】

《最優秀作品・中学生の部》

東海学園 東海中学校（東区） 一年 三尾 想 さん

たけのこが 押し上げている 青い空

春の食材タケノコは、放っておくと皮を付けたまま、一気に育ちます。親竹と同じ高さまで伸びているので、もはやタケノコとは言いがたい存在ですが、枝が出ていないので、やはりタケノコと呼ぶのでしょうか。先端がとがった、真っ黒な長い槍状のタケノコが、周囲の親竹の緑の中、そこかしこに伸びて、さわやかな涼風に吹かれながら、青天を突き上げています、そんな状況が浮かびます。新緑のさわやかな風景をうまくまとめた句になりました。

【審査員 鳥居 和之】

東海学園 東海中学校（東区） 一年 安田 昂生 さん

菜の花の ぼうしかぶった 一年生

春のまちに、お兄さん・お姉さんと一緒に登校する黄色い帽子をかぶった小学一年生たちの初々しい姿を「菜の花」と歌う作者の優しさを感じます。作者はどこかで自分が黄色い帽子をかぶって、不安も感じながら初めて登校した頃の一年生の気持ちを出しているとも感じられる秀作です。

【審査員 坂井 隆広】

《入選作品・小学生の部》

名古屋市立 砂田橋小学校（東区）五年 ふるかわ 古川 さら さん

家庭科と 英語はじまる 五年生

名古屋市立 矢田小学校（東区）五年 うえだ 上田 心愛 さん

たんぽぽも わたげになって そつ業だ

名古屋市立 矢田小学校（東区）五年 きたむら 北村 結 さん

桜さき ちりゆく私の 恋ごころ

《入選作品・中学生の部》

東海学園 東海中学校（東区）一年 ながの 長野 こうたろう 晃太郎 さん

いつもより みな真剣な 土筆とり

《入選作品・中学生の部》

東海学園 東海中学校（東区）一年 高野 たかの 鉄平 てっぺい さん

稚鮎たち 私も共に 壁こえる

東海学園 東海中学校（東区）一年 野村 のむら 孟示 たかとき さん

つくしたち 負けてたまるか 背比べ

東海学園 東海中学校（東区）二年 石山 いしやま 翔大 しょうた さん

ブランコに 乗ってるのだけ？ 春一番

南山学園 南山中学校女子部（昭和区）三年 草間 くさま 美咲 みなぎ さん

花見上げ 両手をのばし 深呼吸